

新しい生活様式プロジェクト（0次案）～

0次案は、もうすでに外的な要因として出てくる「新しい生活様式」になる。そこから、どのような生活、行動を目指していくのか話し合うことを通して、「学校全体を楽しく元気にするプロジェクト」などの1次案が生み出されていく。しかし、「新しい生活様式」のみが「核となる活動」になってしまえば、主体的になれない、創造的になれない、Ls・Fsを発揮できない活動になってしまう、今まで蓄積してきた「育みたい資質・能力」が失われてしまう可能性がある。

- ・なくなった学校行事・・・失われる「育むべき資質・能力」。
 - ・失われたままでよい？「育むべき資質・能力」。
 - ・今まで大切にしてきた「行事」であるからこそ、そこに「育むべき資質・能力」があったのではないか？
 - ・今の環境で、「育むべき資質・能力」に繋がる「核となる活動」があるのではないか・・・？
- =核となる活動を見据えることで、目指す子供の姿（育むべき資質・能力、ゴールの姿）が見えてくるであろう。**

目標設定に関わる時間（学）

係活動等に関わる時間（学）

新しい生活
様式

運動会

「読むこと」説明文的な文章
（国）

「書くこと」説明的な文章を書く
活動（国）

体づくり運動領域（体）

保健領域（保）

色々なリズムを感じ取ろう（音）

日常に関わること・
振り返りなど（学）

日常に関わること・
振り返りなど（学）

読書活動につながる単元（国）

委員会活動など（特）

よりよい学校生活，集団
生活の充実（道）

相互理解，寛容（道）

生命の尊さ（道）

公正，公平，社会正義（道）

(コロナ禍における) プロジェクト

新しい生活様式に関わり、これからの生活について話合う活動を核として、理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、自分たちの生活を守るという目的・目標を見失うことなく、集団としての目標や活動内容について合意形成を図ったり、自身の行動について自己決定をしたりしていくことを通して、よりよい生活を生み出し、互いのよさや役割を自覚しながら、よく考えて行動する態度を養う単元活動

※小学校学習指導要領解説（特別活動編）より

学習指導要領第6章の第2〔学級活動〕の3の(1)において、学級活動の学年段階の配慮事項に関して、〔第1学年及び第2学年〕、〔第3学年及び第4学年〕、〔第5学年及び第6学年〕に分けて示している。

(1)指導に当たっては、各学年段階で特に次の事項に配慮すること。

〔第1学年及び第2学年〕

話合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めて実行すること。

〔第3学年及び第4学年〕

理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活を送ること。

〔第5学年及び第6学年〕

相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにすること。

①学級活動(3)の発達の段階に即した指導のめやすの例

〈低学年の指導〉

- この一年でどのようになりたいかを考え、目指す姿について話し合い、出された意見を参考に自分の目標を決め、希望や目標をもって生活できるようにする。できたという実感を味わい、自信につながる活動にする。
- 学級生活の中で、自分がやってみたい仕事を見つけ、一定期間、継続して行ったり、当番の仕事の仕方を覚えたり、友達と一緒に仕事に取り組んだりできるように指導する。
- 学ぶことのよさや大切さについて考え、進んで学習に取り組めるように指導する。
- 保幼小の連携を一層重視するとともに、家庭との連携を密にしながら、意図的・計画的に活動を工夫し、生活の中で繰り返し指導していく。

〈中学年の指導〉

- 教師や保護者の思いを知り、自分が目指す姿について話し合い、具体的な解決方法や目標を設定し、目標に向かって取り組めるようにすることを重視して指導する。振り返りによって自分自身の成長を感じ、さらに取り組んでみようとする態度を育てられるような活動にする。
- 日直や当番活動、係活動など、自分の役割を果たすことの意味や大切さについて考え、友達と協力して最後までやり遂げられるように指導する。
- 今の学びが将来につながることを知り、学ぶことの意味、学習の見通しや振り返りの大切さ、学校図書館等の効果的な活用の仕方について考え、主体的に学習に取り組めるように指導する。

〈高学年の指導〉

- 自分や周りの人の学校生活への希望や願いをもとに、話し合いを通して目標を立て、意思決定したことについて粘り強く取り組めるようにする。努力をしてやり遂げた達成感が味わえるような活動にする。
- 当番や委員会など、自分や周りの人のために働くことの大切さについて話し合い、自分の役割や責任、自他のよさを考え、友達と高め合って取り組めるように指導する。
- 自分の将来を描き、その実現のために学習することの意義や、学習の見通しや振り返りの大切さ、適切な情報の収集や活用の仕方について考え、主体的に学習に取り組めるように指導する。

(コロナ禍における) プロジェクト～例：学校全体を楽しく元気にするプロジェクト

【今だからこそ、核となりえる活動】

- ・【1年生】スタートカリキュラムより 「学校探検, 附小の森, だんボール基地参加」 ※自分～他者 (関わりの広がり)
- ・【2年生】ちびっこみどりの学校より 「だんボール基地, 学校案内」 ※自分～他者 (相手意識)
- ・【3年生】校内みどりの学校より 「オンライン探検 (見学), 学級集会」 ※自分～他者 (異なる意見) ～集団
- ・【4・5年生】厚岸みどりの学校より 「学年集会, 遊び集会」 ※自分～相手 (立場) ～集団 (異学年)
- ・【6年生】常呂みどりの学校・委員会活動より 「学校文化創造, 新・附属小モデルづくり」 ※相手 (思い・立場) ～集団 (学校) ～自他～高い目標

【協応・関連し、効果的に行える可能性がある単元内容】

- ・【特・学級活動】学級や学校における生活づくりの参画, 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- ・【特・児童会活動】児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営
- ・【国・話すこと・聞くこと】話題の設定, 情報の収集, 内容の検討, 構成の検討, 考えの形成, 共有
- ・【国・書くこと】題材の設定, 情報の収集, 内容の検討, 構成の検討, 考えの形成, 記述, 推敲, 共有
- ・【国・読むこと】構造と内容の把握, 精査・解釈, 考えの形成, 共有 ※書くことの言語活動を結び付けられる?
- ・【体・体づくり運動】(体ほぐし) 自己の心と体との関係に気付く, 誰もが楽しめる手軽な運動を通して, 運動好きになる
- ・【体・陸上運動】自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり, 競走 (争) したりする楽しさを味わえる
- ・【体・保健】健康な生活, 体の発育・発達, 心の健康, けがの防止, 病気の予防
- ・【音・音楽づくり】音遊びや即興的に表現する, 音を音楽へと構成する
- ・【道・道徳の時間】C・Dの視点, より切実感のある中での自問自答 などなど。

新しい生活様式プロジェクト（0次案）

「新しい生活様式とは？」

- 「3密を避ける」「マスクをする」
- 「距離を保つ」
- 「うがい手洗いをする」「消毒をする」
- 「声の出し方に注意する」「静かに過ごす」

「なぜ、新しい生活様式が必要？」

- 「命を守るため」「自分たちの生活を守るため」
- 「みんなで支え合うため」
- 「学校に来て勉強する時間を守るため」

「みんなで学ぶことを守るために、どんな力が必要？」

- 「ルールを守る」「～年生として見本となる」
- 「相手を思いやる」「やるべきことをやる」
- 「笑顔でいる」
- 「友達の意見を聴いて自分に生かす」
- 「コロナには負けない」
- 「みんなで楽しくしたい」
- 「みんなって、学校全体のことだよ」

「【学校全体を楽しく元気にするプロジェクト】だ。」

「では、自分では、何を大切に生活していく？」

学校全体を楽しく元気にする

プロジェクト（1次案）

「そのために、できること…」

- 「お知らせする」「ポスター新聞をつくる」
- 「楽しいことを伝える」「自分たちでつくり出す」
- 「考えて行動する」「安心・安全を守る」

「けれど、自分たちの学年で楽しいことって？」

「みどりの学校もなくて楽しいが少なくなっているのでは？」

- 「学年集会もない」「ウォークラリーもない」
- 「けれど、ウォークラリーとかできそう」
- 「クラスの係活動も楽しくできることがある」

「それらを自分たちの学年でできれば、学校全体を楽しく元気にするってことにつながる？」

- 「つながる」「遊びも工夫すれば、楽しめるはず」
- 「体育館なら・・・」
- 「外でもマスクをして密を避ければ・・・」
- 「みんなで楽しめる○○集会を開きたい・・・」

「なるほど…。まずは【**楽しい学年集会**をつくらう】！」

「いよいよ、プロジェクトが始まるね！」

核になる活動を決定していくことで、

やることが見えてくる！！

左記のように、話し合い活動を通して、新たなプロジェクト（例：学年集会を核として「学校全体を楽しく元気にするプロジェクト」）を設定していくパターンもあれば、

核になる活動を先生方で考え、育まれる資質・能力がイメージできるのであれば、先にプロジェクト（0次案となる部分）を「例：新たな生活様式プロジェクト」ではなく、「例：学校全体を楽しく元気にするプロジェクト」として提示していくことでも、十分子供たちと話し合いを通して、目標をもつ姿に繋がっていくのではないかと考えます。

その場合、協応していく単元等があるのではないかと例として示させてもらいます。